



リスニングで**CEFR B1**に 到達するための指導戦略

—— TOEFL Junior[®]を事例に ——

国際バカロレア・ディプロマプログラム
世界必須科目『知の理論』Principal Examiner
Lead Educator for Language Learning

熊谷 優一

はじめに	p.1
2. リスニングの問題タイプと質問例	p.1
3. リスニングスコアを上げるための学習戦略	p.3
4. 自学自習用おすすめ教材	p.5
5. 最後に	p.6

1. はじめに

各種英語試験において、文法やリーディングに比べて、生徒のリスニングのスコアが上がらないという声を多く聞きます。しかしながら、限られた授業時間でまんべんなくすべてをカバーすることはもとより、リスニングは、何時間目に授業をするか、何の科目の後に授業するかにもよりますが、ある一定の生徒の眠気を誘うという難しさがあるため、クラス全体に対するリスニング指導にはムラが生じることがあります。

また、生徒達は他の教科も学習する必要があり、英語にだけ勉強時間を投資することは限られています。それは、様々な校務分掌を担う、先生方も同じだと思います。そこで、同じインプット領域であるリーディングの指導の中で効率的に取り入れることで、リスニングの学習につながるよう指導戦略を立てることを薦めます。

CERL B1レベルに到達していない生徒はリスニング問題を解く際の課題は、無意識に聞く、または焦点を絞れずに聞くため、スコアが伸びないことです。同様のことがリーディングでも確認できますので、意識して読めるようになれば、意識して聞くことができるようになり、双方の正解率も高まることが期待できます。

本レポートでは、TOEFL Junior®のリスニングのスコアをCEFR B1レベルに到達させるための指導戦略に焦点を当て、普段のリーディングの授業で取り入れられる指導例を紹介します。

2. リスニングの問題タイプと質問例

まずはどんな問題がTOEFL Junior®のリスニングで出題されるのか簡単に紹介します。TOEFL Junior®のリスニングテストは以下の3パートで構成されています。

- ①Part 1：20～30秒程度の話を聞いて、質問に答える問題です。
- ②Part 2：会話を聞いて、質問に答える問題です。1つの会話に質問は4つです。
- ③Part 3：授業内容を聞いて、質問に答える問題です。それぞれ4つの質問に答えます。

つぎに、どんな質問に答えるのかを見ていきたいと思います。質問のタイプは大きく分けると、以下の4つです。

- ①話の目的に関する質問
- ②話の詳細な内容に関する質問
- ③話の内容から推測される情報や言動に関する問題
- ④話の主題に関する問題

それぞれのタイプでは、具体的に次のような質問が出題されます。スコアを上げるために、何が聞かれるのかを指導者として理解しておくことはとても大切なので、ここで問題タイプ別によく聞かれる質問の一例をあげてこうと思います。

①話の目的に関する質問

- What is the purpose of X?
- What is X explaining?

②話の詳細な内容に関する質問

- According to X, what is Y?
- What does X say about Y?
- What Y does X mention

③話の内容から推測される情報や言動に関する問題

- What will X probably do next?
- What does X imply about Y?
- What can be inferred about Y?
- What is probably true about X?
- What does X suggest about Y?
- Why does X mention Y?
- Why does X talk about Y?

④話の主題に関する問題

- What is X (mainly) talking about?
- What is X mainly discussing?
- What is the main topic of X?
- What is the subject of X?

以上は一例ではありますが、これらの質問を普段の授業や評価に部分的に取り入れることだけでも、質問の傾向をつかみ、リスニング問題を解くレディネスが形成されるはずで、また、どこに注意を傾けて読めばいいのか、聞けばいいのかを体得していくことでしょう。

<授業実践例①>

教科書の新単元（未習のLessonやPart）に入る際に、読んでくるよう予習課題を出すことが多いですね。初見でもいいのですが、その内容に関して、上記の質問を取り入れたり、組み合わせたりして、「小テスト」を導入時に実施します。または、「テスト」と名前をつけてしまうと、採点やそれが評価に含まれるのかといった新たな課題が生じますから、先生や生徒たちの負担を考慮し、授業導入の際のペアワークとして行ってもいいかもしれません。

ただ、ここで気をつけたいのは、この活動をリーディングの一環として導入しながらも、最終的にはリスニングでスコアを高めるために、注意を傾けて聞くスキルを養うことです。したがって、CEFR B1を目指す生徒達にあまりにも負荷をかけてしまうと、モチベーションを下げる恐れがあります。したがって、この活動はいきなり始めて聞く内容に対して実施するのではなく、目で見てわかるリーディングの活動として慣れさせてから、リスニングに持っていくといいと思います。

「リスニングの問題はメモを取りながら聞け!」と指導者は助言しますが、リスニングスコアを上げるという目標を達成するために、設問を予め理解し、聞く内容を絞り込むスキーム形成を授業内で培うことにより、質問と選択肢に焦点を当てて、効率的にメモを取りながら問題を聞く習慣をつけることが可能です。

3. リスニングスコアを上げるための学習戦略

リスニングスコアをCEFR B1レベルに到達させることを目標に、生徒向けに別紙で学習者自身が普段どのような基礎トレーニングをすればいいのかを紹介しています。授業内でも、もし時間があれば、教科書の既習の内容でもいいですし、リスニング問題や、インターネットで入手できる素材でもいいので、一度生徒達に取り組み方をデモンストレーションしていただければと思います。

- ①パラレル・リーディング……テキストを見ながら、聞く内容と同時に音読する。
- ②シャドーイング……テキストを見ずに、聞いた内容を即時に声に出す。
- ③ディクテーション……聞いた内容を書き取る。

それぞれのトレーニングについて簡単に解説します。①と②はそれを音読する、③はそれを筆記することが異なりますが、すべて音声聞くことでリスニングスキルを向上を目指します。

①の平行・リーディングは教科書の既習の内容でもいいですし、一度解いたリスニング問題を用いてもいいです。テキストを見ながら、スピード、トーン、アクセントなど、聞く音声と自分の声とをシンクロさせるように心がけて読むよう促してください。これで英語の音声の速度に耳がついていけるようになります。潜在的に連音についても意識するはずですが、テキストあたり、2～3回で取り組めば十分です。

②のシャドーイングは①に比べると難易度が上がります。何も見ずに、聞いた音声をすぐに音読させます。聞き取れないところや言い切れないところもあるかもしれませんが、そういうところは気にせず飛ばして、ついていけるところから再開するよう促してください。これも2～3回を目安に取り組ませてみてください。

③のディクテーションの難易度はさらに高くなります。①、②で十分に耳をウォームアップした後に、同じ素材を用いて、聞いた内容を書き取るといいでしょう。短い文章であれば、2～3回聞けば8割の内容は書き取れると思います。完璧に書き取ることを目指す必要はありません。授業時間が圧迫されるので、テキストあたり聞くのは3回までがいいと思います。ただ、書き取れなかった単語は意味を理解していない可能性がありますので、テキストで単語の意味と発音を再確認させてください。時間があったら、もう一度①、②に戻ってみると、最初よりも随分簡単に音声が入り、スムーズに音読できる様になっているはずですが。

<コラム①>

CEFR B1を目指す生徒達の現在の英語力、モチベーションも様々です。自宅で、自分ひとりで、学習に取り組む習慣そのものが形成されてない可能性がある生徒もいます。最初から全てに取り組ませると、すぐに挫折する恐れがあり、さらにモチベーションを下げってしまう結果になりかねません。リスニングが苦手、いやそもそも英語が嫌いという生徒は、まずは①を、それができたら②、そして③と取り組む内容の幅を広げてはどうかといったような段階的な学習提案をしてもいいかもしれません。まずは、はじめの一步を踏み出し、それを継続させることが大切です。①だけでも何もしないよりは、成果を感じることができるでしょう。一方で、真面目にやりすぎる生徒もいますので、1日15分、週3回以内といった限度を設けることも有効です。

4. 自学自習用おすすめ教材

残念ながら、現段階で開発中ではありますが、TOEFL Junior®の問題集は十分に出版されていません。以下は、3で説明したトレーニング方法を実践するにあたって、生徒向けの別紙学習戦略で紹介した教材です。説明をそのまま転載します。

①語彙力も合わせてつけたい生徒向けに 『Duo 3.0(アイシーピー)』

硬軟合わせた例文で、暗誦するのが楽しくなります。1文ずつ提示されているので取り組みやすく、単語と熟語を同時にマスターすることができます。別売りでCDがあります。それを聞きながら、パラレル・リーディングやシャドーイングしたり、ディクテーションしたりすることで、語彙力も合わせて向上させることができます。

活用方法としては、全45 Sectionに分かれているので、1日1Sectionから始め、調子が出てきたら、Section数を増やしたり、週末に1冊分取り組んだりするなど緩急つけてもいいかもしれません。

②『メガ模試 TOEIC TEST リスニング 1200 (スリーエーネットワーク)』

この問題集はTOEICの問題集なので、必ずしもTOEFL Juniorと同様の問題が出題されているわけではありませんが、リスニングのスピードについていくためのトレーニングとしては非常に有効だと思います。Part 1には手を付けず、Part 2、Part 3、Part 4の問題に取り組んでください。

一度Part2だけ解いてみてください。その後、テキストを読みながらパラレル・リーディングしたり、その後にシャドーイングしたり、ディクテーションをするだけでも、リスニングスキルは高まるはずです。それで慣れたら、Part 3を、その後にPart 4に取り組んでみてください。一度に全部やろうとすると続かないものです。大切なことは、トレーニングを継続して、TOEFL Junior のテストでリスニングをB1に到達させることを忘れないでください。

また、他の科目の勉強もありますから、慣れてきてPart 3とPart 4に進んだとしても、ディクテーションまでする必要はありません。ディクテーションするのはPart 2だけでいいです。その代わりに、パラレル・リーディングやシャドーイングは時間配分に心がけながら、抜粋でもいいので、取り組んでみてください。

<コラム②>

プラスαを求める皆さんには、トレーニングするときの音声ファイルのスピードを1.2倍速で聞くなど、負荷をかけることをおすすめします。これは、例えば野球や剣道などのスポーツで、素振りに重いバットや竹刀を用いるのと同じ感じです。スピード感に慣れれば、実際のテストではゆっくり聞こえるようになり、より余裕を持ってリスニング問題に取り組めるようになります。

5. 最後に

リスニング問題を解くときに、知らない単語が出てきたり、聞き逃してしまった部分があったりして、動揺してその後が耳に入らなくなったという経験は私たち指導者にもかつてよくありました。その都度、不安になって問題を解けなくなるのではなく、聞き逃したところ、知らない単語はそのまま聞き流して、その他の部分で手がかりをつかみ、問題を解き続けるマインドを培うことは必要です。

先生方はそのマインドを持って、学び続けている生徒達にとっては英語学習のロールモデルです。先生方がどのような戦略を立てて、目標を達成することができたのか、もしも生徒たちが助言を求めたときには、皆さんの経験をぜひ共有してください。なによりの励ましになるはずですが、生徒たちはただ単にスコアが上げることだけでなく、他の生徒や先生方と感情のやり取りをする中で、モチベーションを高め、学習を進めます。同じ目標言語を学ぶものとして、日本語を母語とする先生方の存在は、生徒達にとって非常に大きいと思います。

皆さんの生徒さんの英語学習の参考になれば幸いです。

【参考文献】

Paul Nation(2013), What should Every ELF Teachers Know?

【著者紹介】

熊谷 優一

宮城県高校教員を退職後、大韓民国政府大学院奨学生として延世大大学院で学ぶ。帰国後、筑波大学附属坂戸高校、大阪府立水都国際中高にてIBコーディネーター。国際バカロレア・ディプロマプログラム世界必修科目『知の理論』プリンシパル・イグザミナーを務める傍ら、Lead Educatorとして日本のDP校への言語学習支援を行う。また、カリキュラムアドバイザーとして立命館小学校などに関わっている。ブログ『チノメザメ〜 21世紀を学ぶ君へ〜 (<https://knowledge-caravan.com/>)』を主宰し、IB教育を中心に教育に関する情報を学習者目線で発信している。



GEET

一般社団法人

国際教育英語試験協会

Global Educational English Testing

